総合的な学習につなげる地域課題の在り方についての授業実践
―京都市の観光課題を通じて―

片山和政

教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要　第８号

令和８年（2026）3月

総合的な学習につなげる地域課題の在り方についての授業実践
―　京都市の観光課題を通じて　―

片山　和政
（京都市立嘉楽中学校　元京都教育大学附属京都小中学校）

Classroom practice on the state of local issues that can be connected to integrated learning
－Through Kyoto City Tourism Issues－

Kazumasa　KATAYAMA

2025 年 8 月 26 日受理

抄録：近年，総合的な学習の時間において，探究学習の研究がなされてきた。令和６年度の京都教育大学附属京都小中学校では，総合的な学習の時間に取り入れている「エネルギー問題」につながるように，資質・能力向上の授業の研究が進められてきた。本研究では，社会科の見方・考え方を，地理的分野をベースとして，多岐にわたって考察させることで，地域の課題を「他人事」としてとらえるのではなく，「自分事」として捉えていくためのプロセスを得られた。これらは，今後，生徒の総合的な学習の時間及び探究活動において，多角的に物事を見るということや，情報の正確性などの課題を見つけさせることにつながったと考える。

キーワード：総合的な学習の時間，地域課題の在り方，京都市の観光課題

Ⅰ．はじめに

本単元は，令和６年度京都教育大学附属京都小中学校（以下，附属京都小中学校とする。）研究協議会に向けて，京都市の地域課題を考えるなかで，「京都市の観光課題を考える」ことをテーマとして設定した単元である。附属京都小中学校は，京都市北区に位置し，全市から公共交通機関を利用して通学している児童，生徒が在籍しており，本単元を貫く問いとして「京都市の地域課題」を考えさせた。

小学校段階において，「自分たちの住んでいる市と比較しながら，それらの地域の特色を捉える」ことが設定されており，附属京都小中学校では，「京都府内の伝統や文化と先人の働き」から，祇園祭などを取り上げ，社会科の学習と総合的な学習の時間が連携されてきた。そのため，本単元では「京都市の人口減少」から「京都市の観光課題」へと単元を通して京都市の地域課題を考えることを目的とした。そのことは，令和６年度の附属京都小中学校８年生の総合的な学習の時間で行っている「エネルギー問題」について考える際，「無関心」から「他人事」，「自分事」へと主体的な課題解決へとつながっていくものと考える。ひいては，京都市の財政や市政を考えていくことにつながり，「公民としての資質・能力」の向上に結びつき，「主権者として，持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」へとつながるように期待できると考える。

京都市の観光課題として，一般には観光公害（オーバーツーリズム）が挙げられる。その解決策について，それぞれに議論し合うミニディベート（ディベート型授業を生徒に分かりやすくするためにミニディベートと伝えている。以下，ミニディベートとする。）を進めていく。京都市の観光課題やその解決策の一例として，2024 年 6 月 1 日に始まった京都市バスの「観光特急」の是非や有効性，観光客によるゴミポイ捨て問題，落書き問題，外国人旅行客用の料金設定，観光バスの路上滞留，観光客の分散化などを想定している。まずは，どのような課題があるか，それに対して京都市はどのような対策をしているのかを調べ，それを基に，グループごとにミニディベートのテーマを設定させる。公共交通機関を利用して通学している児童，生徒にとっては，身近な課題として感じることができ，親しみやすい課題であると考える。また，議論するために考えたことや相手への反駁を考えることは，総合的な学習の時間でも目指している「対外的な発信」における「対話」を積極的に進めることに

つながるといえるだろう。

京都市の観光課題，なかでもオーバーツーリズムの問題は，喫緊の課題として長く注目されてきた。海外においても同様の問題が指摘されており，観光都市・京都がいかに対策をしていくのかが，近年の焦点である。附属京都小中学校は，京都市の中心部よりは，やや北に位置するが，全市から通学してくる児童，生徒にとっては，通学の足となる市バスや地下鉄など，身近なところでオーバーツーリズムの課題に接していると考えられる。

2021 年に発表された『京都観光振興計画 2025』を見ていると，「住んでよし，訪れてよし，働いてよし。歴史や文化を希望にかえるまち 京都」と掲げており，「市民の暮らしの豊かさの向上，地域や社会の課題解決，ＳＤＧｓの達成に貢献し,感染症や災害などの様々な危機や環境問題に対応していく持続可能な観光」を，京都観光が目指す姿」としている。また，「5 つの目指す姿の実現に向けた取組」の第１に「市民生活と観光の調和・豊かさの向上」を掲げる通り，「観光客による行動や観光事業者による事業活動が，地域の文化や習慣に配慮して行われるとともに，観光が地域経済の活性化や地域文化の継承等に寄与する。また，市民が，観光による地域への貢献を実感することなどで，観光客をあたたかく迎える機運が醸成される。」を目指す姿としている。そうした中，推進体制・推進のしくみには，「オール京都での計画推進」があり，「京都観光に関わるすべての皆様が，お互いを尊重しながら知恵と力を出し合ってともに取組を進め」ようとしており，大学・学生などとの連携も示唆されている。

本時の題材として，京都市の観光課題を考えることは，地域の在り方を考える一助となり，今後，社会に巣立っていく生徒たちが，社会や地域との関わりの一つのピースとして貢献できる姿を目的としている。

Ⅱ．授業実践

１　日時：　2024 年 7 月初旬，2024 年 12 月中旬～2025 年 2 月初旬

２　学年：　京都教育大学附属京都小中学校　第８学年　３クラス

３　単元：　京都市の観光課題　～　京都市の地域課題を考える　～

４　単元の計画（全８時間）

第１次「京都市の人口減少について考える」①

第２次「京都市の人口減少について考える」②

第３次「京都市の人口減少について考える」③

第４次「京都市の観光課題」①（冬休み課題を含む）

第５次「京都市の観光課題」②（テーマ決めのための役割決め，準備）

第６次「京都市の観光課題」③（議論を進めるための準備）

第７次「京都市の観光課題」④（ミニディベート実施のための最終準備）

第８次「京都市の観光課題」⑤（ミニディベート実施）

５　実践の概要

本実践の概要は，下記の通りである。

第１次から第３次については，「京都市の人口動態について」などの資料を用い，京都市の人口減少について調べ，考えさせた。折しも，令和 6 年 2 月から新しい京都市長が就任し，京都市の「日本人人口」減少が止まらないなどのニュースが賑わせている時期でもあり，人口減少を食い止め，人口増加するにはどうすればいいかを考えさせた。また，資料で調べた京都市が出している施策以外に，人口増加するにはどうすればいいかを，グループで考えさせた。

第４次では，京都市の観光課題をテーマとして，グループごとにミニディベートを行うための準備として，各自でテーマを決め，各自で調べたことをまとめさせた。表１は，生徒に示した観光課題の例である。

・観光客の分散化（例：時間の分散化・・・朝や夜の時間帯における魅力を発信し，日中の混雑緩和） ・外国人観光客等へのマナー啓発の取組等について（舞妓さんの無断撮影禁止，路上喫煙禁止など） ・伏見稲荷大社付近の交通規制 ・京都市バスの観光特急（市民が快適に乗れないバス） ・観光地のごみのポイ捨て（エコバックの持参など） ・嵯峨嵐山の竹林や文化財への落書き（文化遺産の保護など）

表1　生徒に提示した観光課題の例

第５次と第６次では，ミニディベートの役割を決め，各自でまとめたものをグループ内で発表し，また自クラスや他クラスの生徒が調べたものを取材するという形で情報を集めさせた。図１のように，各グループでの役割を決め，討論日当日に欠席が出た場合は，順次交代して議論できるための準備をさせた。その際，全員が司会者（ファシリテーター）となることを目標とすることを伝え，その前段階として討論者は一人で考えるのではなく，必ず協力する審査員や司会者との対話を通して，立論することを伝えた。

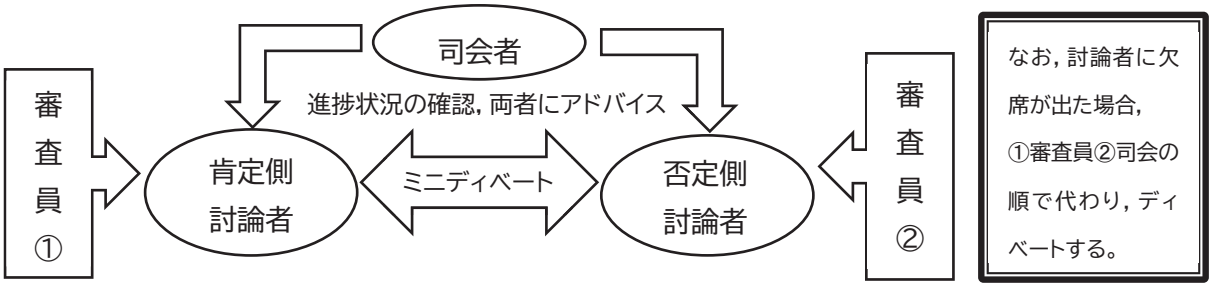


図1　ミニディベートの役割（5人班想定）

第７次では，ミニディベートの最終局面として，準備を進めさせた。その際，第６次の授業後に発表された「観光特急バス」の運行による効果の検証結果や新聞記事を紹介して，議論を深める指示をした。また，授業の最後に，司会者は論題と途中経過を報告させた。第８次で，ミニディベートの実施という展開を行った。

以上が，本単元の実践の概要である。なお，令和６年度の附属京都小中学校の研究協議会では，第７次の授業を実践した。

Ⅲ．授業実践からの考察

本実践を通して得られた成果は，次の通りである。

附属京都小中学校は，全市から公共交通機関を利用して通学している児童，生徒が在籍しており，「京都市の地域課題」や「オーバーツーリズム」，「観光客のマナー」などの問題を身近なテーマとして関心を持ちやすい点であったということである。

「京都市の人口減少について考える」の授業では，資料で調べた京都市が出している施策以外に，人口増加するにはどうすればいいかを話し合わせた結果，図２のように，若者世代の増加や学生の街「京都」に注目して，就職する人を増やしていけばいいのではないとかという意見が得られた。その中でも，オーバーツーリズムを防止することをあげるグループもあり，本単元を貫く問いを早い段階で意識させることができたと考える。

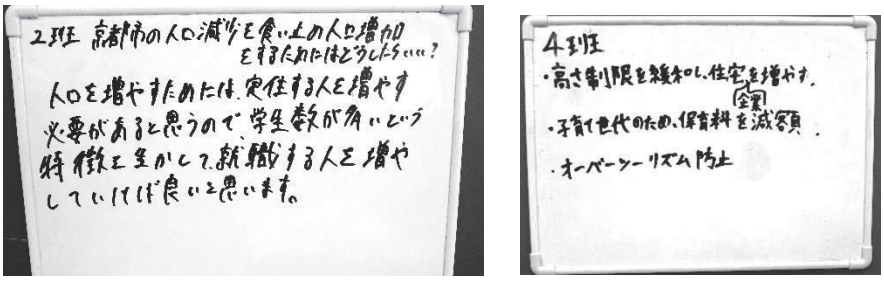


図2　京都市の人口減少を食い止め，人口増加するにはどうすればいいのか

同じようなことは，「京都市の観光課題」について，各自で調べさせ，まとめさせた時にもあらわれているといえる（図３）。特に，２０２４年６月に運行が開始された「観光特急バス」に注目する生徒が多かったことからも見てとれる。公共交通機関を利用して通学している児童，生徒が多いため，肌身で実感しやすいテーマだったと考える。そのことは，３クラス全１８班のうち，６班が議題のテーマに選んでいたことからも関心の高さが分かる。また，「観光都市・京都」で生活しているからこそ現実問題として，もしくは当事者としての京都市の観光課題について関心が高いことは，表２に示したように，各グループの議題のテーマからも見てとれよう。

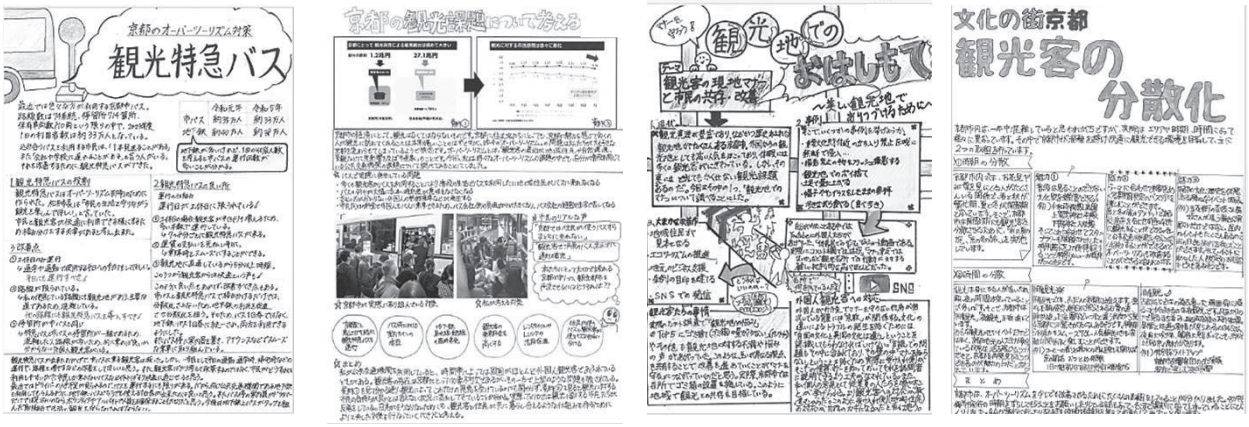


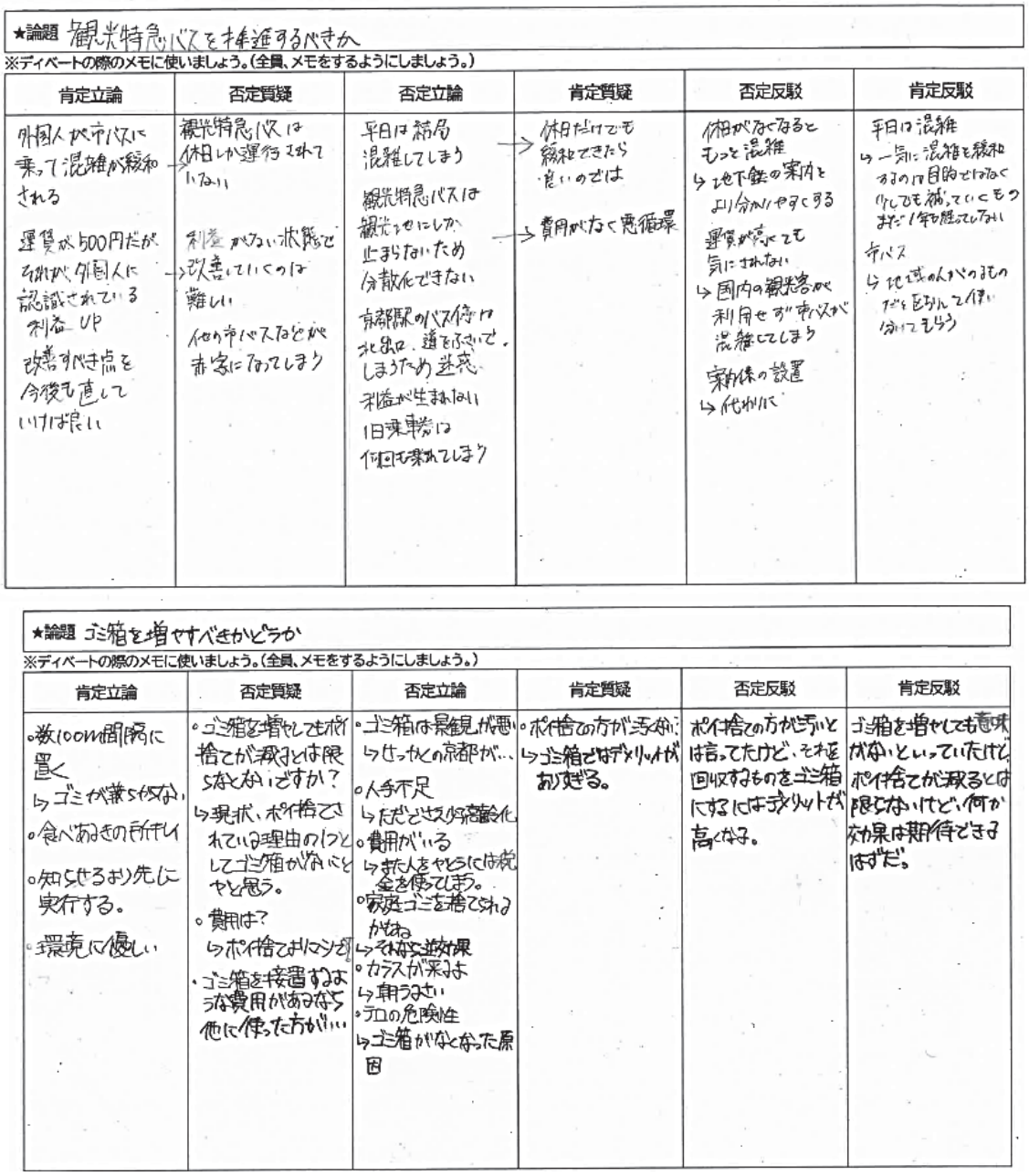
図3　京都市の観光課題として，生徒がまとめたものの例（冬休み課題）

・観光特急を推進するべきか。	・観光客による混雑の対策として，スタンプラリーの実施は良いか。
・観光特急バス，土日祝のみ運行は良いのか？	・空き家を観光客のために利用すべきか。
・観光特急を増やすか，現状維持か。	・観光客の分散化を進めるために，観光プランを増やすべきか。
・バス１日乗車券から，地下鉄・バス１日券になったが必要か。	・ポスター・看板によるマナー啓発は増設するべきか。
・観光客を呼び込むかどうか。	・観光税は必要か。
・ごみ箱を増やすかどうか。	

表2　各グループの議論のテーマの例

このように，身近な京都市について考え，議論の題材としてきたことは，地域の課題を考察し，社会参画の視点を取り入れることができると考える。単に地理的分野のとどまることなく，社会や地域に参画していく態度を育むことにつながったと考える。また，公民的分野を学習していない段階の生徒であっても，現状を知るという点では大いに役立ったといえよう。そこに，公民的分野で学ぶということで，知識が上書きされ，より生徒の資質・能力の基礎の発展が望めると考える。

また，総合的な学習の時間の探究活動とのつながりに関して言えば，他者の意見を取り入れることを意識させることができたことが成果として挙げられよう。他者の意見に耳を傾け，自分の考えにもつなげる，対話を通して立論していく方法は，地域の在り方としての「京都市の観光課題」について，より探究する力に一定程度の成果があったと感じる。そのことは，図４に示したような，「観光特急バスを推進するか」の議論にある，「休日だけの運行だけ良いのか」，「平日の混雑はどうするのか」や「ゴミ箱を増やすべきかどうか」の議論にある，「ポイ捨て防止の抑止にゴミ箱を増やすことは必要かどうか」にあるように，より身近な話題を，生徒自身が自分事としてとらえることにつながったと考える。総合的な学習の時間の目標の一つである横断的で総合的な探究活動にも，一定程度の成果につながったと考える。



★論題 観光特急バスを推進するべきか

※ディベートの際のメモに使いましょう。（全員、メモをするようにしましょう。）

肯定立論	否定質疑	否定立論	肯定質疑	否定反駁	肯定反駁
外国人が市バスに乗って混雑が緩和される 運賃が500円だがそれが外国人に認識されている 利益UP 改善すべき点を今後も直していけば良い	観光特急バスは休日しか運行されていない 利益がない状態で改善していくのは難しい 他の市バスなどが赤字になってしまう	平日は結局混雑してしまう 観光特急バスは観光地にしか止まらないため分散化できない 京都駅のバス停は北出口、通をふさいでしまうため迷惑 利益が生まれない 1日乗車券は何回も乗れてしまう	休日だけでも緩和できたら良いのでは 費用がなく悪循環	休日がなくなるともっと混雑 ↳地下鉄の案内とより分かりやすくする 運賃が高くても気にされない ↳国内の観光客が利用せず市バスが混雑してしまう 案内係の設置 ↳代わりに	平日は混雑 ↳一気に混雑を緩和するのは目的ではなく少しでも減っていくもの まだ1年も経っていない 市バス ↳地域の人々のものだと区別して使い分けてもらう

★論題 ゴミ箱を増やすべきかどうか

※ディベートの際のメモに使いましょう。（全員、メモをするようにしましょう。）

肯定立論	否定質疑	否定立論	肯定質疑	否定反駁	肯定反駁
○数100m間隔に置く ↳ゴミが溜らない ○食べあるきの所キレイ ○知らせるより先に実行する。 ○環境に優しい	○ゴミ箱を増やしてもポイ捨てが減るとは限らないどうか？ ↳現状、ポイ捨てされている理由のひとつとしてゴミ箱がないからやと思う。 ○費用は？ ↳ポイ捨てよりマシ？ ○ゴミ箱を設置するような費用があるなら他に使った方がいい	○ゴミ箱は景観が悪い ↳せっかくの京都が… ○人手不足 ↳ただでさえ少子高齢化 ○費用がいる ↳また人をやとうには税金を使ってしまう。 ○家庭ゴミを捨てられるかもね ↳それなら逆効果 ○カラスが来るよ ↳鳴うるさい ○ゴミの危険性 ↳ゴミ箱がなくなった原因	○ポイ捨ての方がキタない。 ↳ゴミ箱ではデメリットがありすぎる。	ポイ捨ての方がきたないとは言ってたけど、それを回収するものをゴミ箱にするには費用が高くなる。	ゴミ箱を増やしても意味がないといっていたけど、ポイ捨てが減るとは限らないけど、何か効果は期待できるはずだ。

図4　ミニディベートの際のメモの一例

Ⅳ．まとめ

さて，附属京都小中学校の総合的な学習の時間で目指している「対外的な発信」における「対話」を積極的に進めるためには，まずは自分たちの住んでいる地域の地域課題に目を向けることが必要であると考えた。表３に示した通り，その第一歩として本単元を設定したことは，生徒自身が論題を設定するときに起こる難しさと，身近な話題であるからこそ，デメリットは思い付きやすいことがわかった。それは，附属京都小中学校が総合的な学習の時間で取り組んでいる「エネルギー問題」について探究するときにも，起こりうることであると考える。また，資料や情報の正確性や，Google 検索の結果に依拠し過ぎていることは，課題として残った。研究協議会後のアンケートに「データに依拠したり，出典の正確性を検討したりすべきであると思います。」というご意見をいただいた通り，情報のリテラシーなどをどのように指導すべきなのかは，どの学校でも検討しなければならない内容だと考えられる。そのことは，総合的な学習の時間の中での「探究」活動にも同じことだと考える。表３にもあるように，「データだけではどうしてもカバーしきれない部分もあるので，色々な経験を積む」ことが，今後の彼らの探究活動につながると期待したい。

・賛成派のほうが圧倒的に有利だと思ったが，考えてみると反対意見も出てきて，とても意義のあるディベートになったと思う。ただ，データ不足であり決定打に欠けていた感じがあった。しっかりと練られているから，あとは，根拠となるデータを探してくることが課題だと感じた。 ・肯定派も否定派も多数いるような，お題を決めるのが難しかった。最初は自分の意見に納得していたけれど，違う意見の人からの考えを聞くことによって，自分の意見の課題点も見つかり，お題について意見を深めることができた。また，最終的にはどちら側の意見か迷うくらいディベートの内容をいいものにすることができた。今回，ミニディベートをやって，意見と反駁や質問をすることで，京都の観光問題についてしっかりと考えることができてよかった。 ・自分たちは，観光特急バスに賛成か反対かというテーマだったが，デメリットを探すのは思ったより簡単だけど，肯定派になってメリットを探すのは結構大変だった。デメリットに対する反論を，色々な資料を読んだり探したりして細かな数字を用いて反論していくのは面白かった。相手が出すと考えられるデメリットを予想して反論を考えるのは思考力も鍛えられるし良かったと思う。 ・様々なパターンの反駁や意見を用意しておくのはもちろんのこと，データだけではどうしてもカバーしきれない部分もあるので，色々な経験を積むことでもっと多角的な討論になるのでは無いかと考えた。
表3　第8次の授業後に行ったミニディベートを行ってみての生徒のふりかえりⅠ

これまでの総合的な学習の時間のグループ活動でも，力量のある生徒にグループの意見が依拠してしまう傾向があった。それが，表３にもあるように，「相手が出すと考えられるデメリットを予想して反論を考えるのは思考力も鍛えられる」ということが，総合的な学習の時間にも発揮されれば良いと考える。その点では，授業者の意図したことは総合的な学習の時間につなげる資質・能力を向上させることに，一定程度の成果があったと考える。

・ミニディベートを行う中で，肯定派と否定派それぞれの視点を聞くことができて，非常に興味深かったです。意見が対立する中でも，互いに自分の主張を論理的に展開する姿勢が印象的でした。また，司会としては，ディベートが円滑に進むように進行するのが重要だと感じました。時には意見が激しく交わることもありますが，それを整理して両者に発言の機会を平等に与えることが大切だと思いました。全体として，ディベートを通じて多角的な視点を得られる貴重な体験だったと思いますし，自分自身も司会として学びが多かったと感じました。 ・オーバーツーリズムを解決するのは難しいけど，少しはバスの活用方法を班で話し合うことで，京都市が何を改善するために，どんな解決方法を実践しているのか詳しく知ることができた。自分が思っているよりもどんな対策を取っているか知らなかったので，それを知る良い機会になった。この時間のみだけでなく，これからも自分から調べてみようと思った。

表4　第8次の授業後に行ったミニディベートを行ってみての生徒のふりかえりⅡ

本単元を実践してみて，表４に示したように，地域の課題を「他人事」としてとらえるのではなく，「自分事」として捉えていくための一助になったかと考える。多角的な視点を持つことの大切さや，今後も京都市や地域社会に目を向けることが，公民的な資質・能力の向上につなげることになったのではないかと考える。令和６年度の附属京都小中学校８年生の総合的な学習の時間でも，「エネルギー問題」を「他人事」ではなく「自分事」としてとらえて，探究活動をしてきた。今後の彼らの人生において，幅広い豊かな知見を持つとともに，他者の意見にも耳を傾けつつ，自分の考えをもつことへの一助になれば幸いである。

【参考文献】

観光混雑　抜本策出せるか．京都新聞．2024-04-27，朝刊．P.20.
観光バス　駐車完全予約制に．京都新聞．2024-08-31，朝刊．P.22.
「観光特急」１日平均 2200 人．京都新聞．2024-09-06，朝刊．P.1.
オーバーツーリズム　東山・六原　再び顕在化．京都新聞．2025-01-21，朝刊．P.16.
京都市宿泊税引き上げ案　市会で初議論．京都新聞．2025-01-21，朝刊．P.20.
怒りの貼り紙　いったい何が…　近くの女性　大量のポイ捨て処理に憤り. 京都新聞. 2025-01-25, 朝刊. P.18.
京都市交通局.“「観光特急バス」の運行による効果の検証結果（報道発表資料）”．京都市交通局. 2025-01-17.
https://www.city.kyoto.lg.jp/kotsu/page/0000336575.html,（参照 2025-01-18）
京都市.“京都市の人口動態について（総論及び詳細データ）”．京都市情報館．2022-12-15.
https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000306683.html,（参照 2024-05-28）
京都市産業観光局 観光ＭＩＣＥ推進室.“京都観光振興計画 2025（概要版）”．2021_3.
https://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/page/0000283682.html,（参照 2024-08-13）